

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 1 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500133		
法人名	医療法人社団住吉医院		
事業所名	グループホーム ちゅうりっぷ		
所在地	広島県呉市川尻町東3丁目8番5号 (電話) 0823-70-5700		
自己評価作成日	令和4年12月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3490500133-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 5 年 1 月 10 日 (火)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>事業所理念である「利用者の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」を念頭に置き安心していただける介護を目指しています。家庭的な雰囲気作りと、優しさと、思いやりの心を持ち、生活支援を心がけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームちゅうりっぷは、事業所の理念である「利用者（お年寄）の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」を念頭に置いて、利用者に「明るく」「自由に」「楽しく」「尊厳を持って」過ごしてもらえることを考えながら、日々のケアに努めている。コロナ禍にあって、外出や面会が困難の中、近隣美容院への外出支援や家族との玄関での短時間面会、窓越しの面会、更に介護アプリを活用して利用者の健康情報を適宜家族へ提供する等、創意工夫しながら利用者、家族の要望に応える援助活動に積極的に取り組んでいる。また、利用者の日々の行動や言葉（会話）等から職員が感じたことを介護記録に記載の上、職員間でその情報を共有し、利用者の思いや意向に沿ったより良い支援に取り組んでいるグループホームです。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」という基本理念を掲示し、毎朝唱和し実行し共有に努めている。	事業所の理念「利用者（お年寄）の方に幸せになって頂くために私たちは努力します」を事務所内に掲示し、毎日朝礼や夜勤者との送り時に職員で唱和している。ミーティング会議時にも理念に触れ、話題が議事になる等、管理者と共に理念に沿った支援が来ているかを確認し、理念の実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	年2回の町内清掃、散歩、買い物、美容院等を通し地域と交流できるように努めている。	町内会に加入し、回覧板を通じて地域行事の把握に努めている。コロナ禍にあって地域行事が中止となる中、地域一斉清掃には、感染対策を講じながら、時差で利用者と共に参加する等工夫して地域行事に参加されている。利用者は近隣の美容院やドラッグストア等に職員の同行介助を受けながら買い物に出かけ、地域との交流を図っている。	コロナ禍で地域との交流が難しい状況なので、町内会長・民生委員・近隣の方（商店街）との情報交換を継続し、コロナ禍が収束した時には、今まで通りの関係が出来る様に、交流される事を期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近所の美容院、商店などを積極的に利用している			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2か月に1回開催し活動報告、意見交換を行い、地域住民、包括支援センター職員、市担当職員等の情報、助言、意見を受けていたが新型コロナウイルス感染予防の為に中止している。職員で自主開催をしている。開催し議事録を参加者に送付している。	運営推進会議は、2か月に1回開催しているが、コロナ禍にあって昨年は、1回程地域包括支援センター職員、民生委員と職員のみで選別開催したのみで、5回は施設職員のみで単独（書面）開催となった。開催議事録は、地域包括支援センターを始めこれまで参加していた市担当者や家族代表等にも送付報告している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の参加依頼、会議の報告を行い不明な点があれば電話、訪問で相談している	市担当者とは、運営推進会議の結果報告や各種書類を持参した際に相談、情報交換を行い協力関係を構築している。地域包括支援センターとは電話での報告相談の他、地域包括支援センター主催の研修会に参加した機会にも相談を行う等連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロをめざす」のマニュアルを通じ全職員が理解し身体拘束を未然に防ぐための取り組みとし事例を通し3か月に1回会議を実施している。	身体拘束防止研修会と併せて身体的拘束適正化委員会を3か月ごとに開催、具体的事例に基づいて検討を実施し、その結果を職員個々の意見を含め議事録として作成保管している。スピーチロックがあれば管理者において、都度該当職員に指導がなされている。また、玄関のドアについては、直近が国道で交通量が多いことから、安全面を考慮し施錠をしているが、利用者が外出を希望する際は職員が同行する等身体拘束にならないようケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法(高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律)の意義に対する理解を深め、その定義、責務について勉強会をしている。			

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度について外部研修に参加し資料等で制度について理解している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に見学、入所申し込み時点で必要な時間をかけ十分に説明を行い、ご本人の思い、家族の希望を聞き、文章により同意と納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様、ご家族に意見や要望を伺えるように声をかけを行っている。	窓越しの面会時や電話連絡時に家族からの意見要望を聞いている他、事業所だよりを家族に送付している。希望する家族には介護アプリ用のQRコードを発行し、利用者の食卓量、バイタル面等生活経過支援状況が見られるよう便宜を図り、双方向の情報交換と要望の把握に努め、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に会議を開催している。職員の意見や要望、提案を取り入れるようにしている。	定期的な会議や毎朝の申し送り時の他、日常業務の中で職員から意見や要望、提案を聞き、事業所の運営に反映させている。また、職員の悩みを聞き、改善に向けて一緒に取り組んでいる。管理者は、職員間のコミュニケーション作りや職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	評価制度を導入し、個々のレベルにあった給料水準を決定する仕組みとなるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの力量を把握し、新人職員には先輩職員が働きながら各利用者にあったケアの実践をトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	包括支援センター開催の研修会に参加し、他事業所とのネットワークをつくりサービスの質の向上をさせてく取組みをしている。		

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設見学、申し込み時にアセスメントを実施し不安なこと、困ったことを聞くよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学、申し込み時にアセスメントを実施し不安なこと、困ったことを聞くよう心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを実施し、必要に応じて問題点がある場合には適切にサービスが行えるよう心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯、掃除、食器洗い等の家事を本人の状況に応じて一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様のみではなく、ご家族の生活に対しても総合的な支援となるよう心がけている。離れて暮らしているご家族に対しての心情の共感をもとにケアが行えるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で面会制限があるが感染防止対策を徹底して、玄関先や窓越しで実施している。	コロナ禍で面会は制限しているが、感染防止対策を図りながら、玄関での短時間面会や窓越し面会等工夫しながら実施している。また、墓参りや法事等への短時間参加、正月の短時間日帰り等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係を把握し一緒に過ごすテーブルの席替えを行ったり、作品作り、行事の参加で利用者様同士の関係が保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても困ったことがあれば何時でも気軽に相談してくださいと伝えている。		

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思いや暮らしの要望を、喜怒哀楽表現や本人の言葉、家族からの声を通じて情報を得ている。	入居時のアセスメントシートにより情報を収集している他、日々のかかわりの中で声を掛け把握に努めている。言葉や表情等からその真意を推し測ったり、それとなく確認するよう努めている。把握した内容については、職員間で情報の共有を図り、利用者本位の支援に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	上記に加え、ご家族、これまで利用したサービス機関からの情報提供依頼を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の観察と記録、申し送りをを行い、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様、ご家族の意向要望を聞き、カンファレンスにて検討し、介護計画を作成している。	日々利用者の言動、表情、バイタルサイン等に基づいて個人記録を詳細に記録し、同記録に基づいて、利用者、家族の要望を聞き、6か月毎に介護計画作成担当者、利用者担当職員、主治医、看護師、管理者等によりケアカンファレンス会議を開催して介護計画の見直しを図っている。体調の変化があった場合は、都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を作成し、情報共有に努め介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様本位の生活、ご家族の状況に合わせ柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域生活の継続性という視点から、緊急時の連絡体制などを補うことを目的とし、近隣住民や民生委員、地域包括センターなどに必要な相談、連携を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様、ご家族の希望や経緯を最優先とし、これまで受診されたかかりつけ医が継続受診できるように支援を行っている	2週間に1回施設母体の医院から医師が訪問して診療している。他院で診察を希望する場合は、職員が同行し支援を行っている。歯科は、利用者の希望歯科医に訪問診療を依頼している。医師による診察後は、その結果を居宅療養管理指導情報提供書に記載記録化を図っている。夜間急病の場合は、夜間勤務職員が、母体医院の医師に直接連絡できる体制を構築し、適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェックをもとに体調変化(発熱、排泄、その他)がある場合、速やかに医療機関に連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員を通して入退院時に関わる相談、手続き必要情報の交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	担当者会議及びその他の相談をもとに利用者様、ご家族の意見が最大限尊重されるように努めている	契約時や入所時に重度化、終末期について「重度化した場合における(看取り)指針」について説明し、希望される利用者について看取りを実施している。また、重度化した場合に特別養護老人ホームへの移設や病院での入院治療も可能であることを丁寧に説明し納得を得ている。ほとんどの利用者は契約時看取りを希望されている。実際去年は2件の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ヒヤリハット事例やアクシデント報告を通し緊急時及び事故発生時の対応及び連絡経緯の確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力指導により年2回避難訓練を行っている	火災を想定しての避難訓練や消火訓練は年2回実施している。そのうち1回は消防署の協力指導により、消火器や水消火器の使用についての訓練を実施。避難訓練では利用者も参加して想定に基づき、施設内で職員誘導による避難訓練を実施している。	海岸に近い地形から、今後、発生が懸念される南海トラフ大地震に伴い、津波対策に特化した避難訓練の準備をして頂く事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人理念を唱和することにより職員一人ひとり常に心がけるよう努めている	職員は、利用者情報の個別性や守秘義務について、法人理念の唱和や内外部の研修を通じ十分理解し、責任ある取扱いと管理を徹底している。特に、入浴や排泄時の対応には配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様が意思表示や自己決定が行いやすいよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様に希望を聞きペースにあった過ごし方をさせていただいている		

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の選択等ご本人に選択していただいている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	その時の体調を考慮し、片付け等は職員と一緒にしている。	食事は、3食とも食材業者に依頼している。ご飯については事業所で炊飯、利用者の希望により朝食にパンと牛乳を提供する等柔軟に対応している。毎月1回は利用者の要望により、焼きうどんやおにぎりを利用者と共に手作りし、利用者が完食する等喜ばれている。また、おやつにホットケーキやフルーチェ、おはぎ等も利用者と共に調理し、働く喜びを享受している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量等の管理・記録を行っている。夜間排泄時の水分の声かけ、嚥下機能に応じて形態の調整を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの声掛け、できない方にはブラシや専用スポンジ等で職員が行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の訴えがある時や、時間毎に誘導の声かけを行っている	毎日の体調を排泄チェック表に記入の上、声掛けを実施してトイレに誘導している。便座に着座する事で自然に排泄出来る様に支援をしている。排便コントロールは医師の指示による投薬の他、牛乳や白湯等により、水分補給が十分出来る様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や散歩を取り入れる。又嗜好に応じて牛乳等を摂取していただいている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人の合意のもと入浴のタイミングを決定している。	入浴は週3回体調に合わせて、希望に沿いながら楽しんでもらっている。入浴を嫌がる利用者に対しては、利用時間、順番、湯加減、対応職員の交代等に配慮し、柔軟に対応支援している。入浴が困難な利用者については、週2回への入浴変更や足浴、シャワー、清拭に切り替え対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や生活リズムに合わせて、自由に休息していただいている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療スタッフ及び薬局との連携のもと、症状や服薬管理、薬剤形状を検討している。またそれぞれが服薬している薬剤情報をファイルし、その確認を行っている			

グループホーム ちゅうりっぷ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯干し、取り入れ、洗濯たたみ、趣味や嗜好にそってそれぞれが目標をもてるようおやつ作り、手作業を取り入れている			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	桜や紅葉等、季節を感じられるよう外出の機会を企画している。利用者様の希望により近所の商店に買い物、散歩に行っている。	施設近隣的美容院を利用の為外出したり、近隣のドラッグストアへ日用品(化粧品、歯磨き粉)の買い物に職員同行により、出掛ける等の支援を実施している。コロナ禍で昨年は花見等困難な中、利用者2名づつ職員運転の自動車で隣接町の安浦町にドライブし降車せず、桜をバックに写真撮影を行い利用者へ写真を配布して大変喜ばれる等、利用者の思いに寄り添った支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望により日用品等、近所の商店に買い物に行っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	随時希望に応じて、電話等の方法で家族とのやり取りができるよう体制をとっている。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	移動動線上の安全確保をするために廊下に物を置かないようにしている。季節を感じる作品等の掲示を行っている。室温はいつも気をつけている。	リビングは広く、ゆったりとしたソファや椅子が設置され、一人でテレビを觀賞したり、仲の良い利用者同士で会話を楽しめる環境作りに配慮されている。また、本棚には文庫本等が置かれ読書を楽しめる空間にもなっている。壁には利用者作成の季節の作品やカレンダー等が飾られ、また、隣接の台所からは調理の音等生活音が聞こえ、自宅で過ごしている様なアットホーム感作りに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由な形で利用できる量の間(スペース)を設けている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の使い慣れた物等を使用してもらい、居室内の配置はご本人やご家族の希望に応じて行っている。	テレビ、ラジオカセット、ダンス、衣装ケース、机、テーブル、椅子、新聞、本、雑誌、美容道具等使い慣れた道具が置かれ、壁やダンス上には、家族写真、誕生日メッセージカード、自作品等が飾られている。自室は自分で整理整頓や家具の配置等を行い、本人が自宅で安心して過ごしているような空間作りに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体状況に合わせ、利用する部屋の配置を行い、無理のない生活上の移動が行えるようにし、危険リスクを軽減することに努めている。場所が分かりやすいように、目的に応じてトイレや浴室には掲示をしている。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム ちゅうりっぷ

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名グループホームちゅうりっぷ

作成日 令和 5年 1月 11 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域の付き合いが十分ではない。	近隣、地域の方との接点をつくる。	地域の方との挨拶の継続。散歩、買い物等を通し交流を深めていく。	2年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。